

ピレモン
への
手紙

心を砕いて 祈る幸い

ピレモンへの手紙

パウロの願い

アウトライン



0. イントロダクション

I. パウ口の感謝 1～7節

II. パウ口の願い 8～24節

III. まとめと適用

福音宣教の恵みを味わい知ろう

ピレモンへの手紙とは？

- 著者 …使徒パウロ
※共同執筆者(書記) …テモテ
- 宛先 …ピレモン
(コロサイ教会の長老?!)
- 執筆時期・場所 …どこかの獄中?!
「投獄されたことももっと多く
(Ⅱコリ11:23)」
- 目的 …逃亡奴隷オネシモの処遇





I. パウロの感謝 1～7節

現在のコロサイ(ホナズ)

挨拶 同労者ピレモン ピレモン1:1~3

キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、私たちの愛する同労者ピレモンと、

姉妹アッピア*、私たちの戦友アルキポ*、ならびに、あなたの家にある教会へ。

私たちの父なる神と、主イエス・キリストから、恵みと平安*があなたがたにありますように。

*ピレモンの妻?! *息子?!

*「恵みを(カリス)」+「平和を(シャローム)」

ギリシャ式(異邦人)+ヘブル式(ユダヤ人)

…神の一方的な恵みと、神との平和



謝辞 聖徒への愛 ピレモン1:4~5

私は祈るとき、いつもあなたのことを思い、私の神に感謝しています。

あなたが主イエスに対して抱いていて、すべての聖徒たちにも向けている、愛と信頼*について聞いているからです。

*“愛と信仰”(第三版、口語、新共他)

■主イエスへの愛と信頼は、
信仰の兄弟姉妹への愛と信頼に必ず現れる。



謝辞 喜びと慰め ピレモン1:6~7

私たちの間でキリストのためになされている
良い行い*を、すべて知ることによって、あ
なたの信仰の交わりが生き生きとしたものとな
りますように。

私はあなたの愛によって多くの喜びと慰めを
得ました。それは、兄弟よ、あなたによって
聖徒たちが安心を得た*からです。

*愛と信頼に基づく、良い行い

➡証しの分かち合いがもたらす信仰の活力

*心身の内奥に訴える根源的な平安



コロサイ近くのホナズ山2,571m



Ⅱ. パウロの願い 8～25節

コロサイ・ホナズ山

本文 パウロの懇願 ピレモン1:8~10

ですから、あなたがなすべきことを、私はキリストにあって、全く遠慮せずに命じることともできるのですが、むしろ愛のゆえに懇願します。このとおり年老いて、今またキリスト・イエスの囚人となっているパウロが、獄中で生んだわが子オネシモ*のことを、あなたにお願いしたいのです。

*獄中でパウロが信仰に導いた



コリント・ホナズ山に咲く花

本文 パウロの心 プレモン1:11~12

彼は、以前はあなたにとって役に立たない者*でしたが、今は、あなたにとっても私にとっても役に立つ者となっています。

*“オネシモ = 役に立つ者”が、本来の意味。
逃亡奴隷。拳句の果てに獄中に!!

- 当時の奴隷の多くは、召使や丁稚奉公。主人には、負債や恩義がある。ましてや、プレモンは慈悲深い信仰者。



本文 パウロの心 ピレモン1:12

そのオネシモをあなたのもとに送り返します。
彼は私の心そのもの*です。

*信仰と使命を同じくする神の家族・兄弟姉妹

■悔い改め、福音を信じたオネシモは、
パウロと心を一つにするほどに、
しっかり聖書の教えを身につけ、
喜んで主に仕える者になっていた。

紛れもなく新生し、成長し続けている信仰者の姿!!



本文 パウロの促し ピレモン1:13~14

私は、彼を私のもとにとどめておき、獄中
にいる間、福音のためにあなたに代わって私に
仕えてもらおうと思いました。

しかし、あなたの同意なしには何も行いたく
ありませんでした。それは、あなたの親切が
強いられたものではなく、**自発的なもの***と
なるためです。

***愛は自発性に基づく行為**

➔自由意思の余地がなければ、愛はない。



本文 愛する兄弟として プレモン1:15~16

オネシモがしばらくの間あなたから離されたのは、おそらく、あなたが**永久に彼を取り戻す***ためであったのでしょうか。

もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、**愛する兄弟***としてです。特に私にとって愛する兄弟ですが、あなたにとっては、肉においても主にあっても、**なおのことそう***ではありませんか。

*互いに新生し、永遠の命を得た者として

*当時の奴隷は家族同然。

➔ 真実の家族になったプレモンとオネシモ



本文 依頼と提案 ピレモン1:17~18

ですから、あなたが私を仲間の者だと思えば、私を迎えるようにオネシモを迎えてください。

もし彼があなたに何か損害を与えたか*、負債を負っている*なら、その請求は私にしてください。

*お金を持ち逃げしたとか？！

*何らかの負債を負っているのが奴隷

→奴隷が逃亡すること自体が損害

■ 信仰者としての愛に基づく依頼と、

現実的な対処の提案と。パウロのバランス。



本文 キリストの平安 ピレモン1:19~20

私パウロが自分の手で、「私が償います」と書いています。あなたが、あなた自身のことで私にもっと負債*があることは、言わないことにします。

そうです、兄弟よ。私は主にあって、あなたの厚意にあずかりたい*のです。私をキリストにあって安心させてください。

*霊的負債。パウロが信仰に導いた。

→第二次伝道旅行でトルコを通過中?!

*パウロが願い、期待していること



本文 パウロの確信 ピレモン1:21~22

私はあなたの従順を確信して*書いています。
私が言う以上のことまで、あなたはしてくだ
さると、分かっています。

同時に、私の宿も用意しておいてください。
あなたがたの祈りによって、私はあなたがた
のもとに行くことが許されると期待している
からです。

*ピレモンの信仰への信頼の上にある手紙



コロサイ・ホナズ山

結び 挨拶 プレモン1:23~25


キリスト・イエスにあって私とともに囚人となっているエパfrasが、あなたによろしくと言っています。

私の同労者たち、マルコ、アリストアルコ、デマス、ルカがよろしくと言っています。

主イエス・キリストの恵み*が、あなたがたの霊とともにありますように。

■ 一方的に主から与えられた恵み*こそ、クリスチャンの存在の基盤。





Ⅲ. まとめと適用 福音宣教の恵みを味わい知ろう

コロサイ・ホナズ山

パウロはどこで「ピレモンへの手紙」を書いたのか？

■ 定説はローマだが…。

- ・ 逃亡奴隷の身でローマまで逃げた？
- ・ パウロは小アジアまで逆戻り？

■ エペソでは？ …小アジアの州都。

…奴隷の逃亡先として現実的。

…パウロは3年滞在。騒動も。

この間に投獄された可能性は高い。

…「行く」。できない約束はしない。



パウロの人格から考える「ピレモンへの手紙」

- パウロは、誠実。裏表がない。人に一切、迎合しない。皮肉は言っても、おべんちゃらは言わない。
- ピレモンへのパウロの評価は、本心で思っていたこと。真実。「同労者」、妻アツピアは「姉妹」、息子アルキポは「戦友」「すべての聖徒への愛と信頼」「多くの喜びと平和を得た」「多くの聖徒が安心を得た」「従順を確信」「言う以上のことをしてくれる」「(パウロの)訪問を祈っている」

同労者ピレモンへの揺るぎない信頼あってこそその率直な手紙

オネシモの救いの背後にある神の御手

- 慈悲深い主人から逃げ出し、果ては獄中に。
- 絶望の中、パウロとの出会いを通して悔い改めに導かれ、救われた。
- 忠実な主の僕、愛される兄弟に。
- 最初の愛に立ち返り、主人のもとに帰宅。

実写版「放蕩息子」!!



「放蕩息子のたとえ」のハイライト

■ 父の家を出て放蕩の限りを尽くした末の、息子の決断

「立って、父のところに行こう。そしてこう言おう。

『お父さん。私は天に対して罪を犯し、あなたの前に罪ある者です。もう、息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください。』」ルカ福音書15:18~19

■ 自分の罪を認め、悔い改めて主に立ち返った瞬間に救われている。

聖書が求める立ち返りは、ただ**福音**を信じること。

「私の罪のため、主イエスは十字架で死なれ、葬られ、復活された」

★ 種蒔きと刈り取りの喜びを味わい知ろう ★

■ 逃亡の時点で主人が信者なら、オネシモは福音を聞いていただろう。蒔かれた種(福音)は、パウロのところで芽を出した。

ピレモンの下に帰還してから、本格的な実りがもたらされただろう。

■ 地上に張り巡らされた信仰者のネットワークの中で、人は救われ、育まれていく。刈り取りは誰かに委ねて、種を蒔こう。

主と、兄弟姉妹を信頼して、自分に与えられた働きに、力を注ごう。

驚くような出会いと、一つの魂の救いという奇跡が待っている。

キリストのからだなる教会のただ中に身を置き、用いられよう

「^{てん}天の^{とう}お父さま。わたしは、あなたに^{そむ}背き、^{つみ}罪を^{かさ}重ねてきました。
^{ひび}日々^{おか}犯してしまう^{つみ}罪をも^{こくはく}告白します。この^{つみ}罪をゆるしてください。

わたしは、^{かみ}神の^こみ子イエス・キリストが、
^{つみ}あがな^{じゅうじか}し

①わたしの^{つみ}罪を^{あがな}贖うために^{じゅうじか}十字架で^し死に、

^{はか}ほうむ

②^{みつかめ}墓に^{ふっかつ}葬られ、

^{しん}

③^{しん}三日目に^{しん}復活した^{しん}こと、^{しん}を^{しん}信じます。

^{ちじょう}地上を^{ほうとう}放蕩する^{つみびと}罪人だった^{わたし}私を、^{しゅ}主が^み見いだして^みくださいました。

^{わたし}私の^{こころ}心を^{くだ}砕き、^{しんせい}新生させ、^{あい}愛する^こ子として^{むか}迎え入れて^いくださいました。

^{わたし}かつての^{わたし}私のような^{ひとり}一人の^{すく}救いのために、^{わたし}私を^{つか}遣わしてください。

^{あい}愛する^{きょうだいしまい}兄弟姉妹との^{まじ}交わりの中で、^{なか}私を^{わたしはぐく}育み、^{もち}用いてください。

^{しゅ}主イエス・キリストの^なみ名によって^{いの}祈ります。　　「アーメン」